



スポーツ庁

# ゴルフを活かした地域振興に向けて

平成30年9月19日

スポーツ庁参事官(地域振興)



スポーツ庁

※シンボルマーク・・・「ス」や「人」をベース。太陽のオレンジは、スポーツの力強さや高い仲間意識を表す。

# スポーツ庁の目的・役割

## スポーツの意義、国の責務

「世界共通の人類の文化」であるスポーツを通じ、「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むこと」ができる社会（「**スポーツ立国**」）の実現  
【2011年 スポーツ基本法制定】



関係府省の連携（教育、福祉、地域、観光、産業、外交など）により、**スポーツに関する施策を総合的に策定・実施する必要性**  
【2015年10月 文部科学省の外局としてスポーツ庁が設置される、現在7課・130名の体制】

## スポーツ庁の施策

地方公共団体やスポーツ団体等との連携・協働により、幅広くスポーツ振興を推進

### <主な施策>

- ・「スポーツ基本計画」の策定（第2期：2017～2021年度）
- ・選手の育成、指導者の養成
- ・施設の整備

- ・国際競技大会等の誘致
- ・健全性・高潔性の確保
- ・スポーツ実施率の向上
- ・地域・経済の活性化 など

スポーツ庁予算  
340億円（2018年度）

スポーツ振興くじによる助成等  
338億円（2018年度）

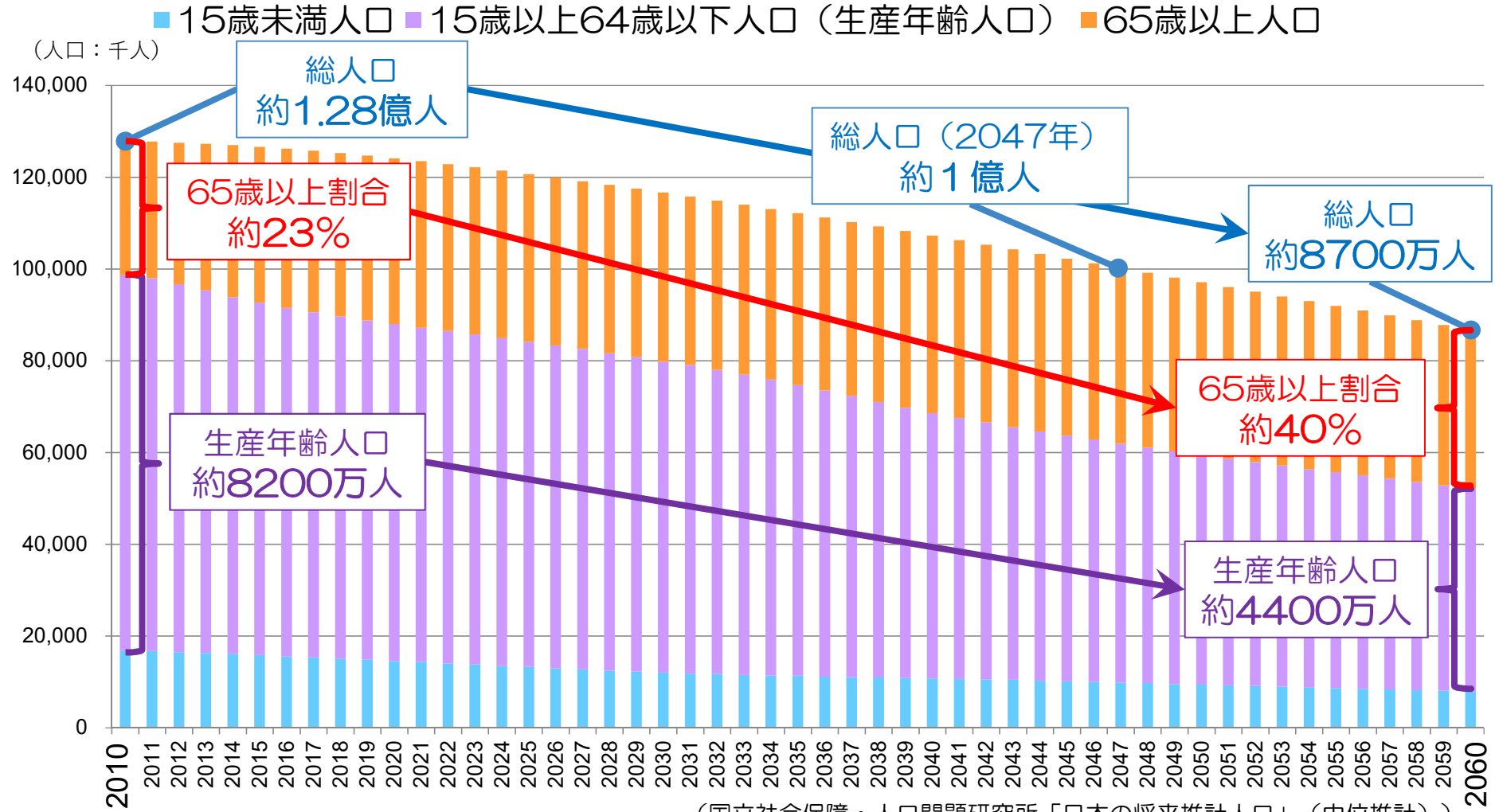


スポーツが変える、未来を創る。

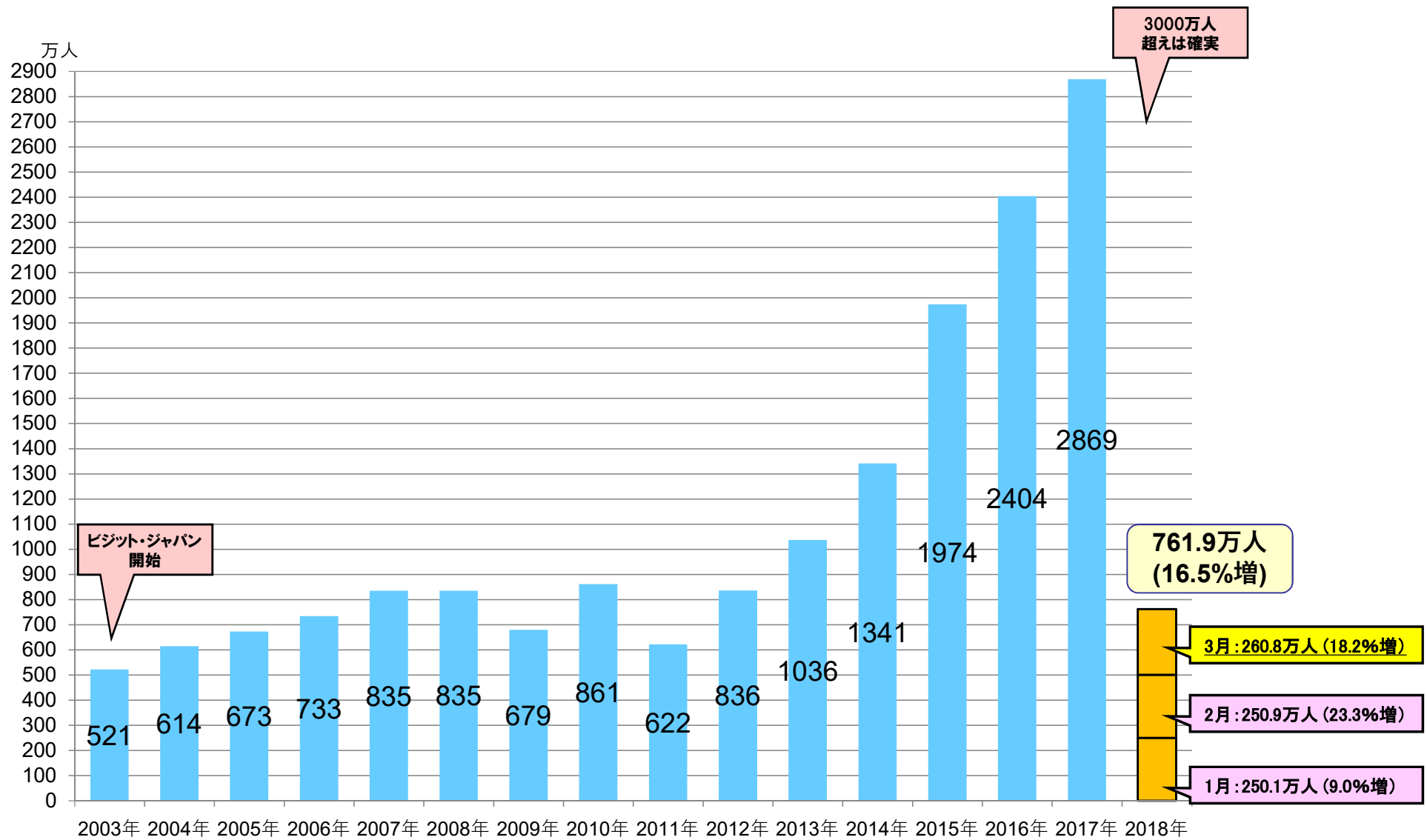
※スポーツ庁のキャッチフレーズ

# 人口減少・少子高齢化の推移・予測

- 今後、人口減少が進み、2047年には1億人程度となる見通し。
- 少子高齢化が急速に進行しており、2060年には総人口の約40%が65歳以上になる見通し。
- それにより、生産年齢人口は現在の2060年には現在の半分近くまで減少。



# 訪日外国人旅行者数の推移



注) 2017年以前は確定値、2018年1~3月の値は暫定値、%は対前年同月比

出典: JNTO(日本政府観光局)

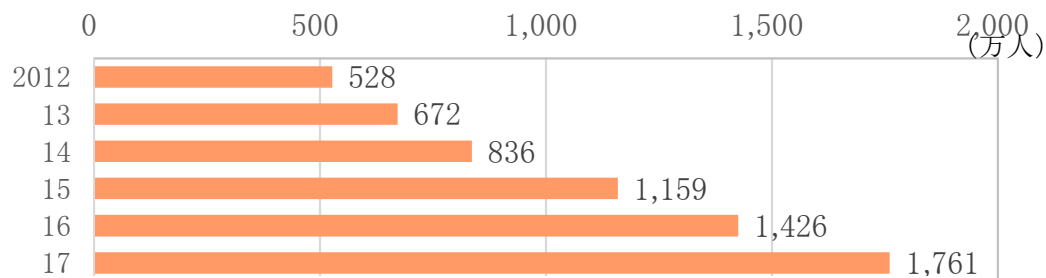
# 地方への波及（訪日リピーター）

## （1）訪日客のリピーター率

61.4%

※観光庁「訪日外国人消費動向調査（2017年）」

リピーター数 **1700万人超！**



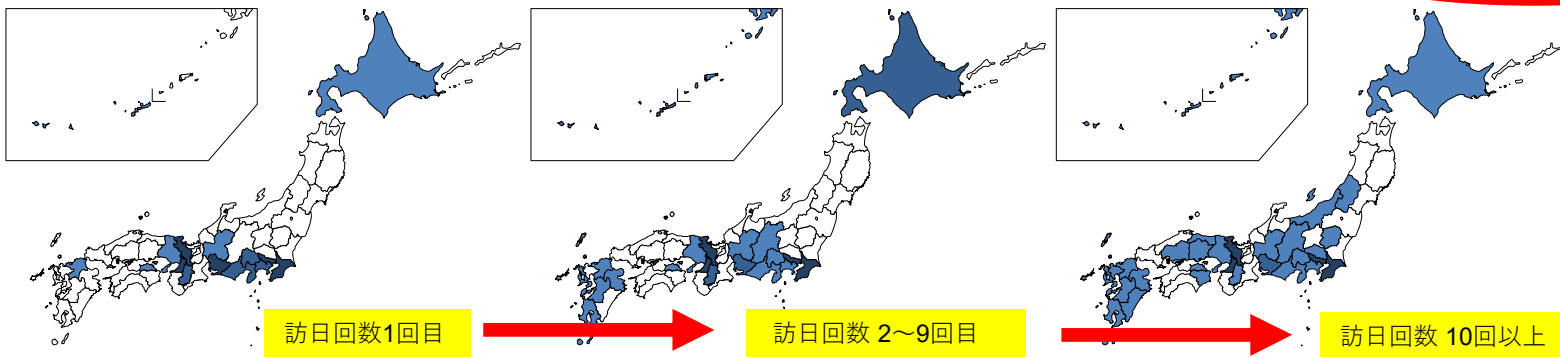
※JNTO「訪日外客数」に観光庁「訪日外国人消費動向調査」のリピーター率を乗じて求めた値

## （2）訪日回数別都道府県訪問度

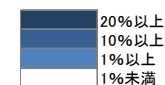
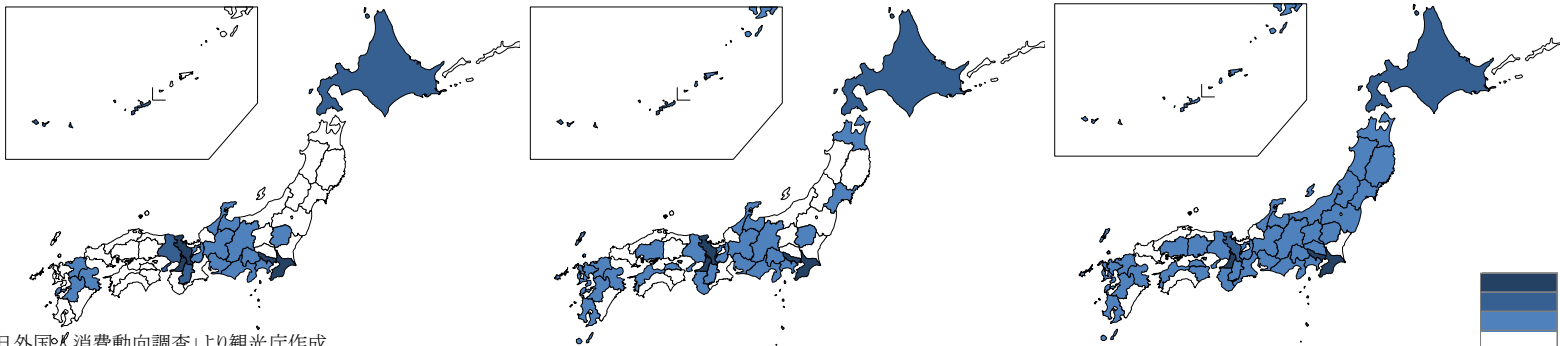
～リピーターほど地方訪問率が高い！～

リピーターほど  
モノ消費よりコト消費

【中国】



【台湾】



(資料) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」より観光庁作成

# これまでに最も力を入れて取り組んできたスポーツは？

人はマンガから影響を受ける！



<b>10代</b> n = 54		<b>50代</b> n = 134	
1位 サッカー 17.5		1位 テニス 11.4	
2位 野球 16.7		2位 ゴルフ 8.8	
3位 水泳 7.9		3位 野球 7.9	
<b>20代</b> n = 132		<b>60代</b> n = 121	
1位 サッカー 16.7		1位 野球 12.3	
2位 野球 14.9		2位 ゴルフ 9.6	
3位 卓球 7.9		3位 サッカー 7.9	
<b>30代</b> n = 173		<b>70代</b> n = 48	
1位 サッカー 17.4		1位 ゴルフ 19.3	
2位 野球 10.4		2位 野球 14.0	
3位 バスケットボール 7.8		3位 水泳 7.0	
<b>40代</b> n = 180		<b>計</b> 842人	
1位 野球 14.8			
2位 サッカー 7.8			
2位 バスケットボール 7.8			

<b>10代</b> n = 58		<b>50代</b> n = 124	
1位 水泳 10.5		1位 テニス 10.5	
2位 バレーボール 7.9		2位 水泳 7.0	
3位 テニス 6.1		3位 バレーボール 6.1	
3位 バスケットボール 6.1			
<b>20代</b> n = 126		<b>60代</b> n = 99	
1位 バスケットボール 9.6		1位 テニス 7.9	
2位 水泳 6.1		2位 卓球 7.0	
2位 バレーボール 6.1		3位 水泳 6.1	
<b>30代</b> n = 155		<b>70代</b> n = 37	
1位 水泳 7.0		1位 テニス 11.4	
2位 テニス 6.1		2位 卓球 6.1	
3位 バスケットボール 3.5		3位 水泳 4.4	
3位 バレーボール 4.4			
<b>40代</b> n = 160		<b>計</b> 758人	
1位 水泳 9.6			
2位 テニス 7.8			
3位 バレーボール 6.1			

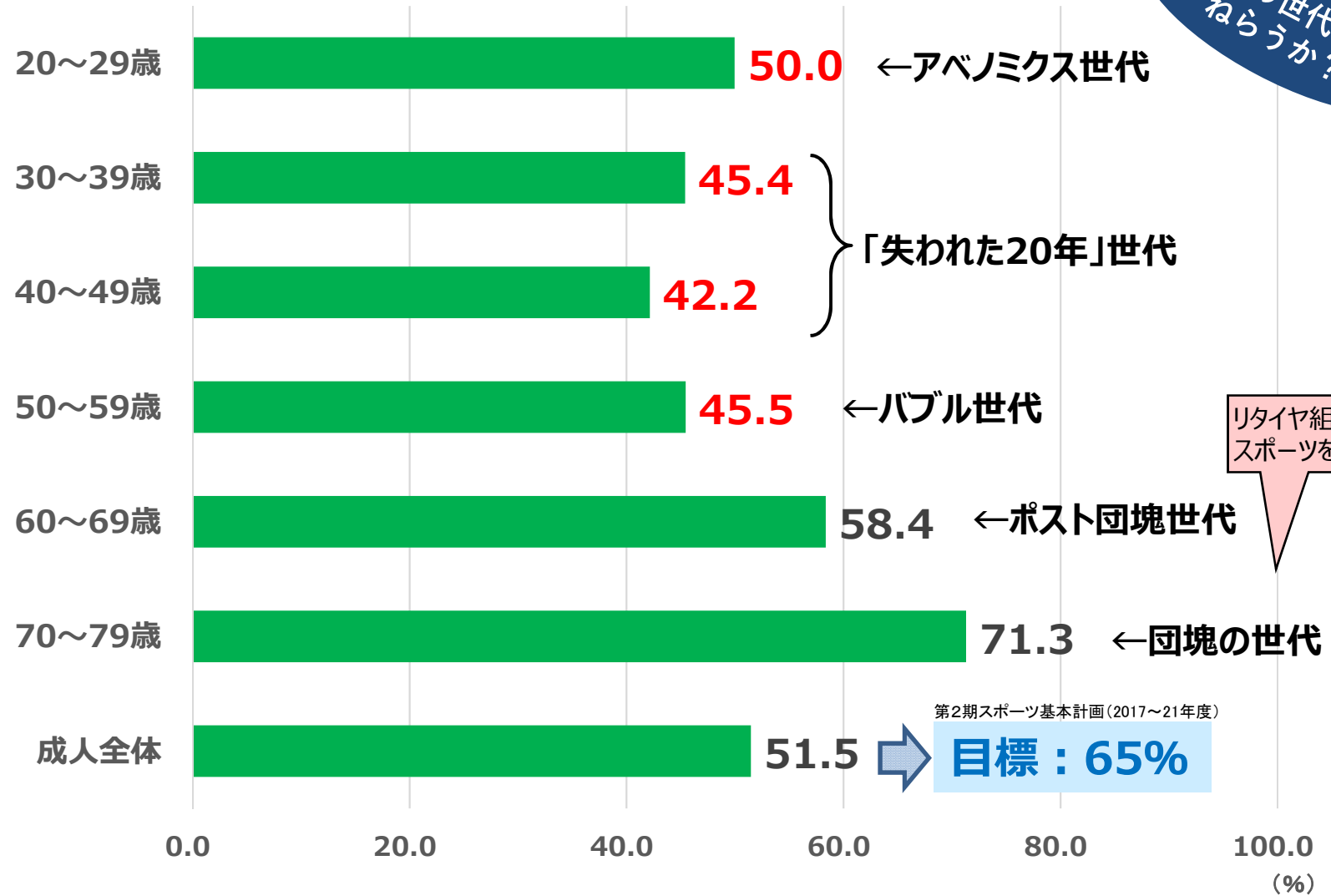
(出典) 明治安田生命「スポーツとマンガに関する調査」(2016年6月)

## 結論 (その1)

- 日本のゴルフ業界が生き残るには、
- ①ゴルフ好きの高齢者を維持・確保しつつ、
  - ②国内で新たなマーケットを開拓し、
  - ③海外のインバウンド客も取り込む。

海外のゴルフ場は  
ライバルではない  
という考えは古い

## 年代別の週1回以上スポーツ実施率（成人のみ）

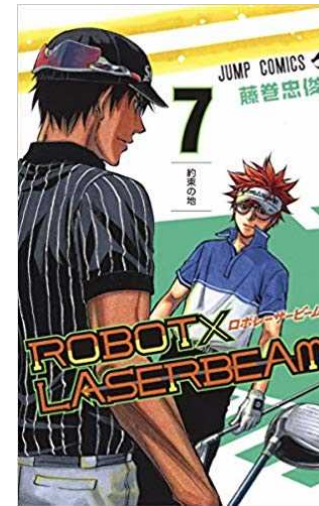
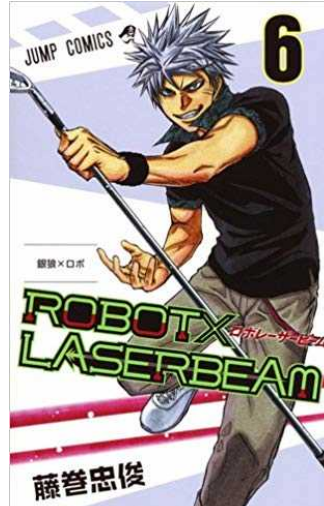


(出典) 「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(平成29年度 スポーツ庁)より作成。



# ROBOT×LASERBEAM (全7巻)

## 10代もターゲット



少年ジャンプで2017年3月  
から2018年6月まで掲載

ジャンプ読者  
(藤巻ファン) は今、  
ゴルフに興味を  
持っている!

# 好きなマンガと取り組むスポーツの関係

		最も力を入れて取り組んできたスポーツ												
		野球	テニス	サッカー	水泳	トバ ボス  ケ ルツ	卓球	ボバ  レ ル	ボス  ノ ド	ス キ 	ゴルフ	陸上	柔道	
	全体	1600	7.4	6.7	6.4	5.9	5.3	4.2	4.1	2.9	2.8	2.7	1.4	(%)
好きなマンガ	野球	380	17.4	7.7	5.1	6.9	4.4	5.1	3.5	2.7	4.6	2.3	0.7	
	テニス	132	1.1	14.4	0.4	8.9	3.1	6.7	5.6	5.1	1.3	2.8	0.9	
	サッカー	121	3.1	35.1	35.1	6.3	2.2	3.4	1.9	1.7	1.1	2.3	1.2	
	水泳	5	—	23.5	23.5	30.6	—	—	—	—	—	—	—	
	バスケットボール	260	6.3	8.5	8.5	6.4	14.7	2.7	3.8	1.6	1.0	4.1	0.6	
	卓球	9	—	—	—	5.2	—	23.5	—	17.2	—	3.5	—	
	バレーボール	69	0.7	—	—	7.9	3.8	7.7	19.1	—	1.7	2.3	—	
	ゴルフ	26	18.7	1.6	1.6	—	1.6	4.5	—	10.6	29.4	3.2	5.8	
	陸上	26	2.0	2.0	2.0	9.6	4.3	—	—	6.2	—	11.8	—	
	柔道	47	8.5	2.9	2.9	3.3	3.3	5.6	0.9	—	1.9	1.9	9.7	
	(人)													

『キャプテン翼』  
『シュート!』  
『エリアの騎士』  
『イナズマイレブン』

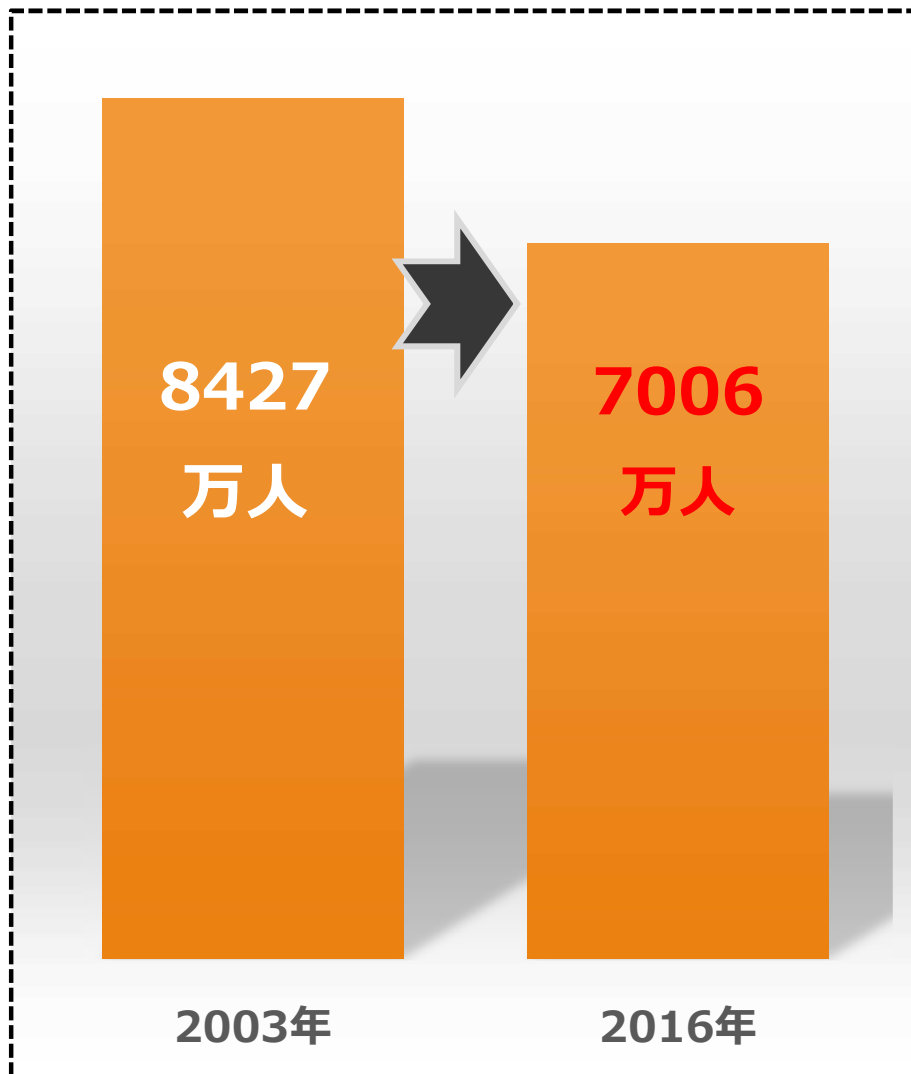
サッカーやゴルフは  
好きなマンガとするスポーツの  
相関性が高い。

『プロゴルファー猿』  
『あした天気になあれ』  
『プロゴルファー織部金次郎』

(出典) 明治安田生命「スポーツとマンガに関する調査」(2016年6月)

# ゴルフツーリズムに関するデータ ①

## ◆ゴルフ場利用者◆ 延べ人数（18～69歳：課税者）

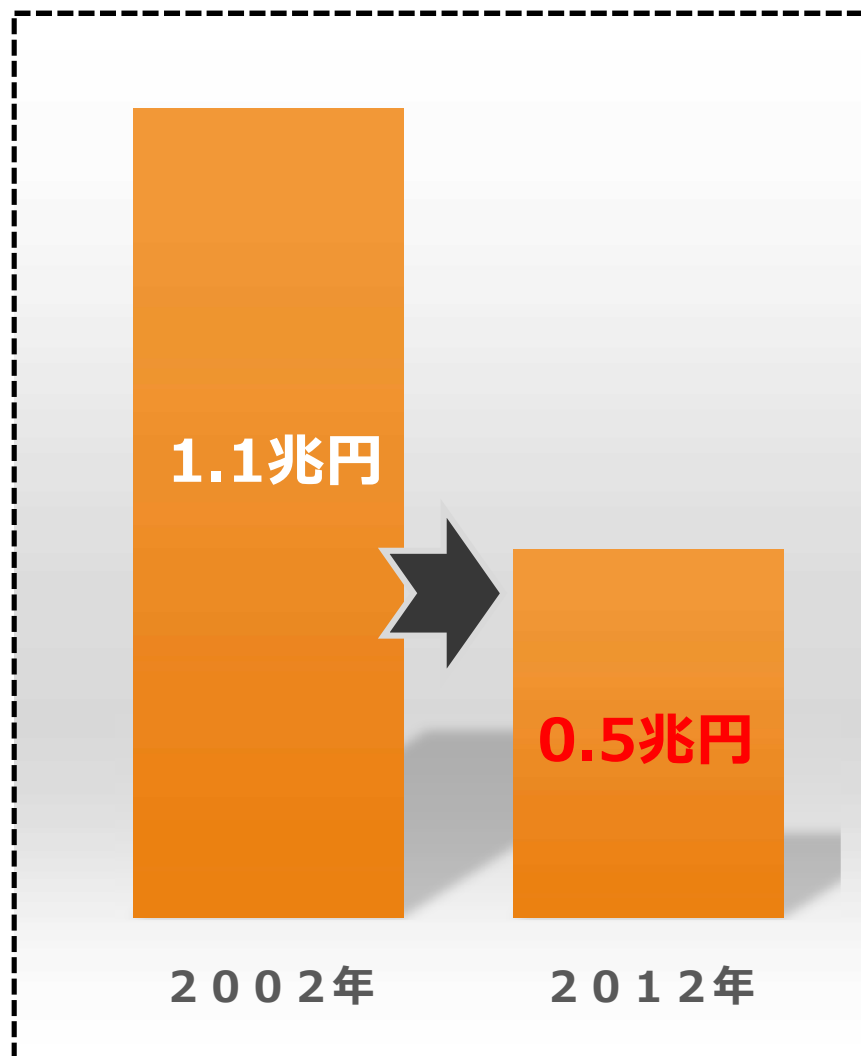


## ◆ゴルフ場利用者◆ 延べ人数（70歳以上または18歳未満：非課税者）

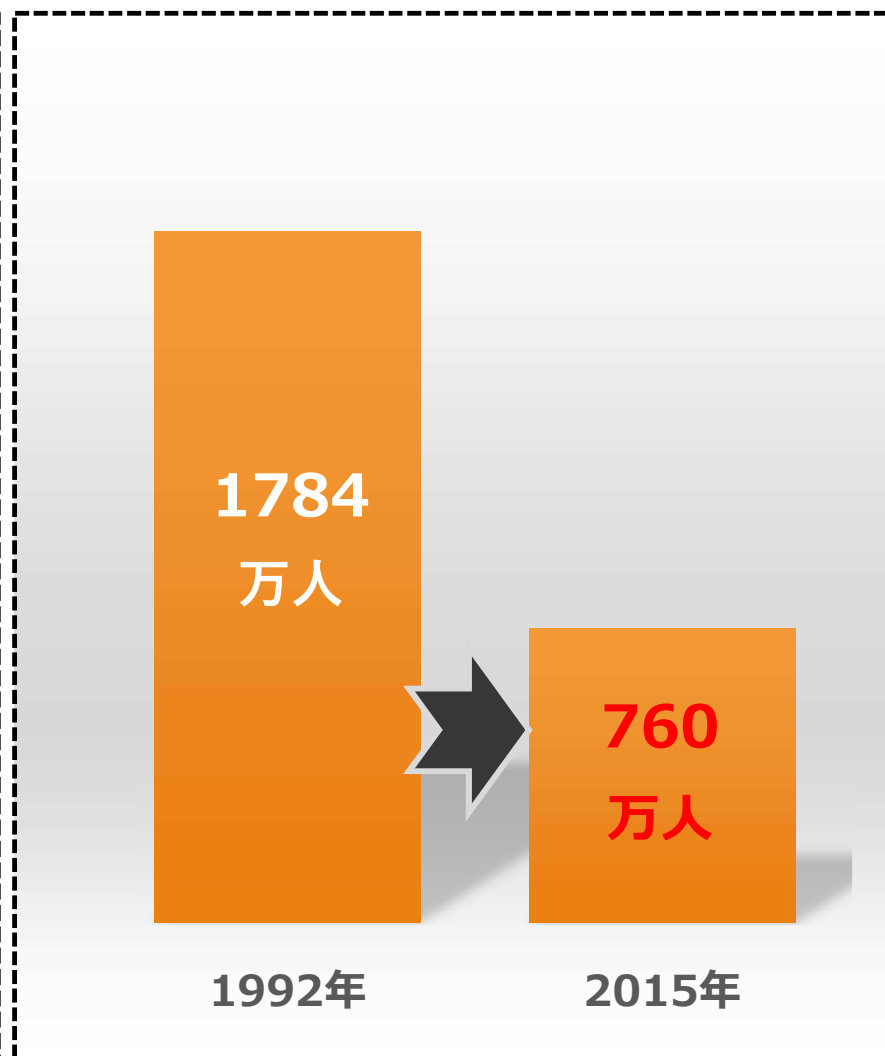


## ゴルフツーリズムに関するデータ ②

### ◆ゴルフ場産業◆



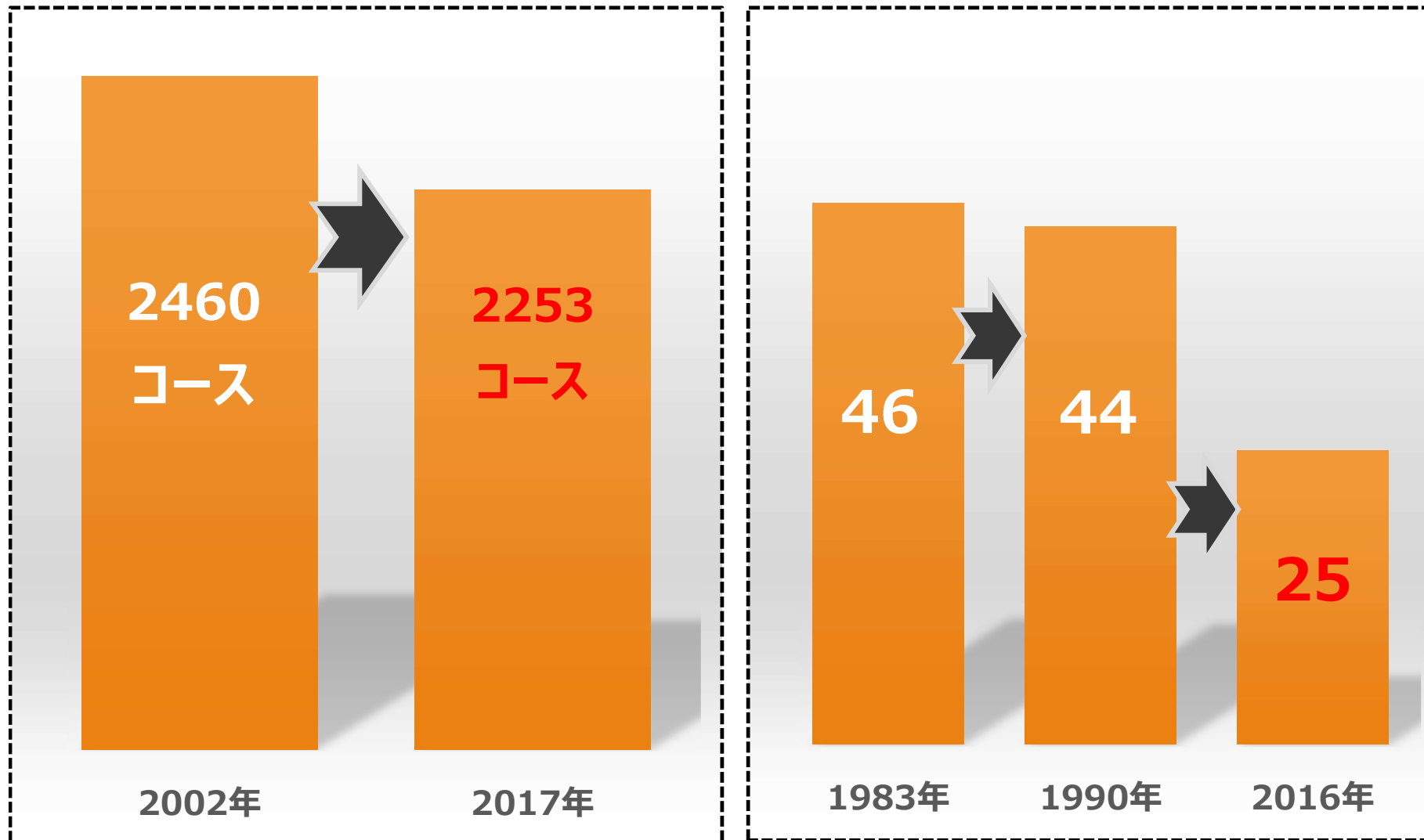
### ◆ゴルフ人口◆



## ゴルフツーリズムに関するデータ ③

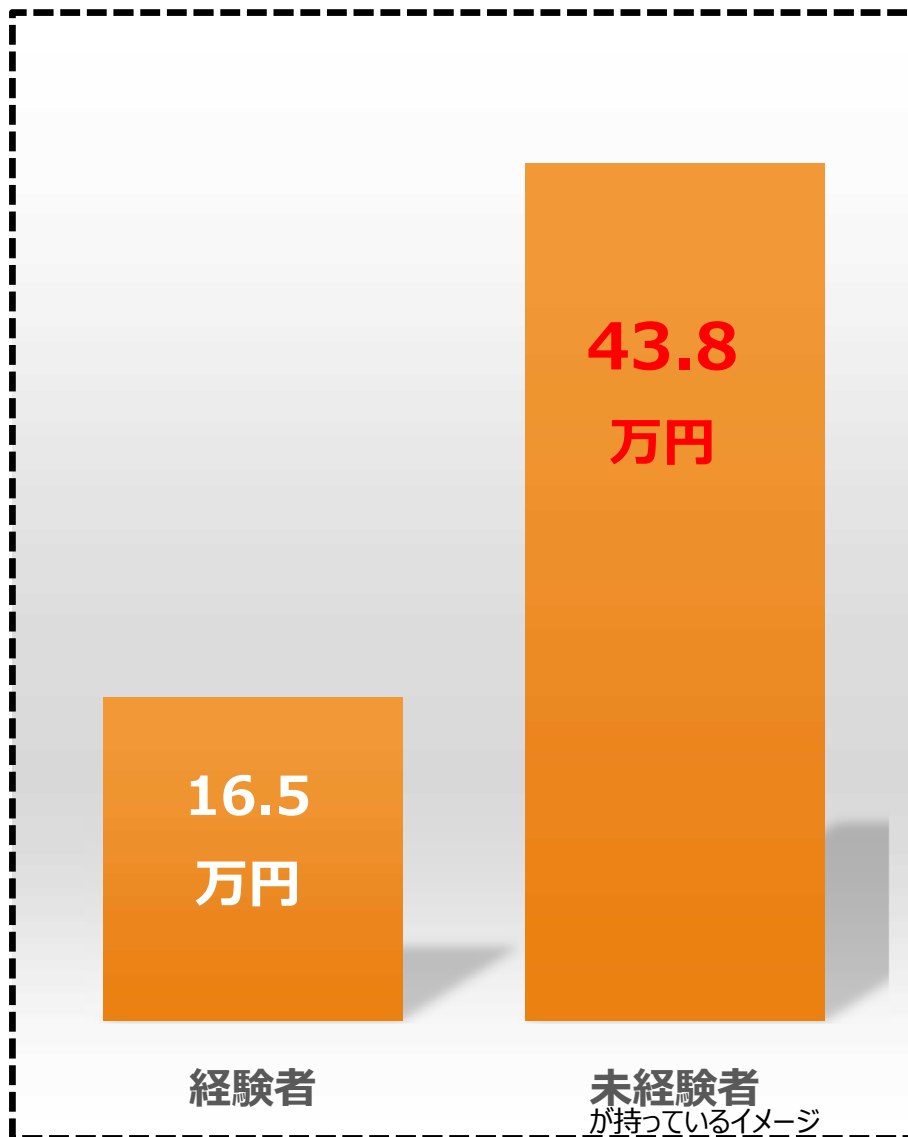
◆ゴルフ場の数◆

◆ゴルフ大会の数(男子)◆



## ゴルフツーリズムに関するデータ ④

◆ゴルフにかかる費用◆  
～練習からラウンドまで～



ゴルフ=高い  
というイメージ  
を打破する必要

## 数値目標



スポーツ目的の訪日外国人数 **138**万人 ※1 ▶ **250**万人

スポーツツーリズム関連消費額 **2,204**億円 ※2 ▶ **3,800**億円

地域スポーツコミッションの設置数 **56** ※2017年1月現在 (スポーツ庁調べ) ▶ **170**

## 具体的な施策



- **スポーツツーリズムの推進**
- **地域スポーツコミッションの拡大**
- **スポーツ×文化×観光の取組奨励**
- **スポーツによる地域の一体感の醸成**
- **スポーツ関連組織の収益モデルの調査と普及**

ゴルフだけでインバウンド誘客しようとするのは誤り

※1 出典：日本政府観光局公表の訪日外客数（2015年）に、観光庁の「訪日外国人消費動向調査」（2015年）における「今回の日本滞在中にしたこと（複数回答）」のうち「スキー・スノーボード」、「その他スポーツ（ゴルフ等）」、「スポーツ観戦（相撲・サッカーなど）」の選択率を乗じて算出。

※2 出典：観光庁の「旅行・観光動向調査」（2015年）における旅行消費額のうち、観光・レクリエーション目的の旅行における「スポーツ施設」、「スキー場リフト代」、「スポーツ観戦・芸術鑑賞」に係る消費額を合計して算出。

## アウトドアスポーツの振興

スポーツ庁・鈴木長官は、スポーツツーリズムの中でも  
「アウトドアスポーツの振興」が重点課題であると認識



2017年6月  
「アウトドアスポーツ推進宣言」  
を発表



# アウトドアスポーツ推進宣言（2017.6.11 発表）

スポーツ庁では「スポーツによる地域活性化」に取り組んでいますが、これからの重点テーマとして、『アウトドアスポーツ』を推進してまいります。アウトドアスポーツを推進していくことは、以下3つの観点で、スポーツの枠を超えて人々や社会に様々な好影響を与えるものと考えております。

## ① アウトドアスポーツは、豊かな時間をもたらす（スポーツで、人生が変わる！）

アウトドアスポーツには、安全に配慮し、自分のレベルにあった内容を選べば、年齢や体力に関わらず、複雑な技術やルールを習得しなくても実施できるものがたくさんあります。ぜひ多くの方々に、大自然の中で体を動かす楽しさ、気持ちよさを体験していただき、スポーツを楽しむ健康的なライフスタイルに接していただきたいと思っております。

## ② アウトドアスポーツは、地域を元気にする（スポーツで、社会を変える！）

アウトドアスポーツの最高の環境は地方部にあるため、アウトドアスポーツの推進は、地方部への交流人口の拡大につながります。そして、地域を訪れた方々が、その土地の食や観光を合わせて楽しむことで、地域活性化に繋がります。また、アウトドアスポーツは、旅行、ウェア、用品など、様々な消費を喚起し、幅広い産業の活性化に寄与します。ぜひ多くの方々に、その地域ならではの環境を活かしたアウトドアスポーツを楽しむ旅に出かけていただきたいと思っております。

## ③ アウトドアスポーツで、地域と世界がつながる（スポーツで、世界とつながる！）

上質なパウダースノー、6,000を超える島々、急峻な山岳地帯など、日本には世界に誇る、恵まれた自然環境と四季の魅力があり、海外の方々も日本の自然環境に高い関心を示しています。そのため、アウトドアスポーツの推進は、現在国を挙げて進めている「訪日外国人旅行者の拡大」にも寄与し、世界との交流の促進に繋がります。

このように、アウトドアスポーツの推進は、人々のライフスタイルを豊かで健康的にし、地域や産業を活性化させ、世界中の旅行者を日本へ誘客する、まさに地域の魅力を活用して、日本全体を元気にすることに繋がるものと思っております。

心拍数を上げる競技や、自分の限界に挑戦するだけが、スポーツではありません。スポーツの語源である“デポルターレ”は“気晴らし”という意味であり、自然環境の中で身体活動を伴う体験を家族や仲間と楽しむことは、まさにスポーツと言えます。

日本には、山・川・湖・海などの自然を活かした素晴らしい環境が、どの地域にも平等にあります。スポーツ庁は、地域独自の自然環境をスポーツに活用して、意欲的に地域活性化に取り組む地域を応援するとともに、その魅力を広く発信していくことで、地域を訪れ、スポーツを楽しむ人々を増やしていけるよう、アウトドアスポーツを推進してまいります。

今ある資源を  
活かして誘客

。

ゴルフは好景気と相性が良く、不景気と相性が悪いことは明らか（これまでの傾向）

生き残ることは変化に対応すること

・人口は減る ・高齢者は増える ・若者は減る ・インバウンドは増える

今、未来に向けた種蒔きをする必要！

ご清聴ありがとうございました

本日もご参集の皆様  
のチャレンジ  
のご成功をお祈り申し上げます